

令和元年度

第1回 八代市文化振興懇話会 会議録

令和元年8月 2 日作成

八代市文化振興懇話会 会長 真木 誠 可

(署名又は記名押印)

【日時】令和元年7月23日（火） 午後2時00分～午後3時10分

【場所】鏡支所3階会議室

【出席者】 会 長 眞木 誠司
副会長 丸山 久美子
委 員 岩崎 布見子
委 員 太江田 妙子
委 員 炭 尚之
委 員 長石 祐司
委 員 中村 重之
委 員 野崎 陽子
委 員 村山 忍
委 員 森山 学

【欠席者】 委 員 楠原 なぎさ
委 員 吉田 和人

【事務局】 経済文化交流部次長 岩崎 和也
文化振興課 課長 沖田 丈房
文化振興課 課長補佐 山崎 摂
文化振興課 文化振興係長 秋田 大助
文化振興課 文化振興係 主査 田島 麗子

【内容】 ○委嘱状交付

出席した委員10名に、岩崎次長が委嘱状を交付した。

○会長・副会長選出

委員の互選により、会長に眞木誠司委員、副会長に丸山久美子委員を選出した

○議事

- 1 第2次八代市文化振興計画策定方針について
- 2 アンケート調査について

【資料】 資料1-1 第2次八代市文化振興計画の策定について
資料1-2 第2次八代市文化振興計画策定方針
資料2-1 八代市の文化に関する意識調査実施要領（案）
資料2-2 八代市の文化に関する意識調査票（案）

【公開状況】 公開

【傍聴者数】 0名

【発言要旨】

○議題1 第2次八代市文化振興計画策定方針について

(丸山副会長)

- ・アンケートの対象が高校生と文化協会員になっているが、対象となる市民は、平野部の市民が多いのではないかと思うので、東陽や泉などの山間部の市民に対しても、もっと密にアンケートを取るべきではないか。平野部よりも山間部のほうが課題は多いのではないか。

⇒ (事務局)

- ・通常、このような計画策定にあたって、アンケートを実施する場合は、地域や年齢に偏りが出ないように、対象者を無作為抽出し、郵送により調査するが、今回は、予算もなく、このような内容にしている。ご意見を踏まえて、偏りが出ないように調査方法を検討するとともに、対象者も文化協会員と高校生以外の年齢層にも広げることとしたい。

⇒ (眞木会長)

- ・懇話会の委員構成を地域ごとに選任していることから、配慮はなされていると思うが、意見を踏まえた調査を検討してほしい。
- ・基本的には、提示された策定方針に則って進めてよいか

⇒ (一同了承)

○議題2 アンケート調査について

(村山委員)

- ・調査対象の年齢層が、高齢者と高校生となっており、中間の年齢層がないように思う。

(丸山副会長)

- ・文化関連だけでなく、違う分野にもアンケートをする必要がある。企業や町内など幅広く行い、その意見を踏まえて取り組まないと事態は好転しない。
- ・意見の自由記述欄が小さくて、意見を書くには足りない。アンケートの回答に当てはまらない意見を書く欄が必要。
- ・文化協会に若い人がなぜ入ってこないのか知る必要がある。

(岩崎委員)

- ・年齢層が偏っているので、バランスよく調査する必要がある。
- ・アンケート対象となっている文化協会の会員は、文化に興味がある人たちで、興味がない人たちをいかに文化に目を向かせるかが重要で、なぜ興味がないのかなどの把握が必要。

- ・該当する番号を「○」で囲むよう記載してあるが、すでに「①」というふうに番号が丸で囲んであるので、記載に配慮してほしい。
- ・また、アンケートの選択肢以外に、「なぜ行なっているか」「魅力は何か」など、表面的なことだけでなく掘り下げることができるような聞き方を工夫してほしい。(記述欄を増やすなど)

(丸山副会長)

- ・文化協会に若い人がなぜ入ってこないかが、このアンケートで分かるかどうか

(太江田委員)

- ・文化に関係のない人にアンケートをすることで、文化に関心を持ってもらえることにつながるのではないか。対象が文化協会と高校生では限定しすぎているので、広くする必要がある。
- ・また、なぜ文化活動を行っていないかを聞く必要がある。

(森山委員)

- ・高校1年生だと八代在住は数人しかいないので、八代の文化には詳しくないかもしれない。対象を上の学年にしてもいいのかなと思う。

(長石委員)

- ・第1次計画策定の時にアンケートはしていないのか。もし同じ質問をすれば結果を比較できる。

⇒ (事務局)

- ・結果を比較するほどでもない質問もあるため、すべて同じ質問ではない。

(丸山副会長)

- ・八代市外から転入してきた人の外から見た目と、元々住んでいる人とは見る目が違うので、その比較はできないか。

⇒ (事務局)

- ・現在市外に住んでいる方に「やっしろの風」を送付しているので、それにアンケートを同封することは可能である。
- ・八代は恵まれているのに、それに気づいていないのはもったいないという感覚がある。

(野崎委員)

- ・校区や各町内に、年齢層を指定するなどの条件を付けてお願いしてどうか。
- ・市報を活用するなど、色々と方法は考えられる。

(眞木会長)

- ・調査対象数の3000人の根拠は何か。

⇒ (事務局)

- ・統計学的に、八代市の人口と想定する回答率を考慮すると3000人が最も適した数字である。

(村山委員)

- ・文化協会の各団体が、年齢などを考えてそれぞれ調査票を配布してもらえばいいのではないか。

(事務局)

- ・調査対象や質問については、改めて検討し、委員の皆さんにはお示ししたい。(再度集まってもらうか、郵送するかも含めて)

(森山委員)

- ・建築やまちなみ、デザインなども文化の種類に加えてほしい。

(丸山副会長)

- ・文化の範囲は広いので、意味合いをもっと広く持った計画にしてほしい。

【審議結果】

- ・議題1について：策定方針のとおり策定作業を進めることとなった。
- ・議題2について：調査対象と質問項目を改めて検討し、その結果を12月の調査実施までに委員へ提示することとなった。

(調査対象)

- ・年齢層に偏りがないようにする。
- ・文化に関係がない(興味がない)人も対象にする。

(質問項目)

- ・文化に興味を持っていない理由
- ・回答を掘り下げることができるような工夫が必要